



2019 男子世界選手権 IHF 通達（日本語版_解説文章のみ）



（公財）日本ハンドボール協会
競技・審判委員会
2019年4月

目次

Topic 1 : 第 8 条	1
Topic 2 : ピボットゾーン	4
Topic 3 : オフェンシブファウル	8
Topic 4 : パッシブプレー	11
Topic 5 : 全般的なもの	15

Topic 1：第8条

	映像タイトル	コメント
1	映像1： レフェリーは、試合開始直後であっても、即座に2分間退場を判定しなければならない。	レフェリーは試合開始直後より基準を示さなければならない。 ボールの保持があろうとなかろうと、背後から押したり、引き倒した場合、即座に2分間退場と7mスローを判定しなければならない。
2	映像2： 得点したのであれば、軽微な違反に対するイエローカードは、不要である。 クイックスローオフは、モダンハンドボールの醍醐味である。	得点后、軽微な違反に対するイエローカードを判定したがために、スローオフを遅らせてはならない。レフェリーは試合の流れを止めないよう努めなければならない。必ずしも6枚のイエローカードを試合中に判定する必要は無い。
3	映像3： イエローカードが単なる注意であれば、後半にイエローカードを判定してはならない。	単に注意のためのイエローカードであるならば、例えば、抗議や足を使つての妨害といった例外を除いて、後半にイエローカードを判定してはならない。
4	映像4： 直接の2分間退場を判定しなければならない場合、チームに対して必ずしもイエローカードを3枚使う必要はない。	競技規則8の4に基づき判定する場合、決してイエローカードを判定してはならない。攻撃側のプレーヤーを引き倒した場合、ボールの保持にかかわらず少なくとも直接の2分間退場（レッドカードの判定に近い）を判定しなければならない。また7mスローも判定しなければならない。
5	映像5： 正しい判定が直接の2分間退場である場合、決してイエローカードを判定してはならない。	直接の2分間退場を判定すべき違反の場合、決してイエローカードにしてはならない。ボールの保持にかかわらず、攻撃側のプレーヤーを明らかに押したり引き倒したりした場合、競技規則8の4に基づき判定しなければならない。

	映像タイトル	コメント
6	映像6： ウィングプレイヤーに対しての足と足の接触は非常に危険であるため、少なくとも直接の2分間退場。場合によってはレッドカードもありうる。	ウィングプレイヤーにとって、足と足が接触する行為は非常に危険である。唯一の判定は2分間退場である。ただし、ウィングプレイヤーに重大な影響がある場合、レッドカードの可能性もありうる。
7	映像7： 防御側のプレイヤーがクイックスローオフを妨げた場合、直接の2分間退場を判定すること。決してイエローカードにしてはならない。	クイックスローオフを妨げる場合、スポーツマンシップに反する行為により直接の2分間退場を判定しなければならない。この状況でのイエローカードは、モダンハンドボールにとって、違反した側にとって、それは単なるプレゼントにすぎない。
8	映像8： 空中にいる攻撃側のプレイヤーが、正面から強く押されたことで背中から落ちたのであれば、レッドカードを判定しなければならない。	ボールの保持にかかわらず、空中にいるプレイヤーを正面から押す行為は、重大な影響を与えることになる。唯一判定されるべき判定は、レッドカードである。
9	映像9： 攻撃側のプレイヤーがジャンプしてシュートを打とうとしている時、シュートしようとしている腕への背後からの強打は、少なくとも直接の2分間退場とすべきである。	空中でシュートを打とうとしているプレイヤーの腕に対するこの行為は、危険な行為である。（映像のプレーは）試合のどの時間帯においても、唯一判定されるべき判定はレッドカードである。
10	映像10： 攻撃側のプレイヤーの頭部に前腕で強く接触することは、ブルーカードを判定しなければならない。	防御側のプレイヤーによる相手の頭部に対する危険な行為に関して、唯一判定されるべき判定は、ブルーカードである。レッドカードでは不十分である。

	映像タイトル	コメント
11	映像 1 1 : 「キックボクシング」は、ハンドボールでは許されてはならない。ブルーカードを判定しなければならない。	無謀で特に危険な行為に対して、少なくとも 1 試合の出場停止を含むブルーカードで罰せられなければならない。このような行為は、ハンドボールでは認められてはいけない。
12	映像 1 2 : ウィングプレーヤーに対して、大きな 1 歩を使って防御することは、とても危険である。レフェリーの判定は、正しい。	防御側のプレーヤーは大きな 1 歩を用いて、ウィングプレーヤーに対して危険な行為を引き起こしている。判定はレッドカードでなければならない。

Topic 2 : ピボットゾーン

	映像タイトル	コメント
1	映像 1 : 例え試合開始直後であっても、ボールを保持していないピボットを捕まえ続け引き倒した場合、直接の 2 分間退場である。また、その違反の直後に起こった行為に関しても、2 分間退を判定すべきである。	レフェリーは試合開始直後から、判定基準を示さなければならない。 1. ボールに対してであろうとなかろうと、背後からピボットを捕まえ引き倒す行為は、直接の 2 分間退場の判定であり、さらに競技規則解釈 6 により、7m スローを判定しなければならない。 2. 空中で押す行為は、直接の 2 分間退場である。7m スローの判定は正しい。
2	映像 2 : イエローカードでは、不十分である。ピボットに対するこの行為は、どのような局面でも直接の 2 分間退場である。	チームに対して必ず 3 枚のイエローカードを使用する必要はない。ボールの保持にかかわらず、ピボットを背後から捕まえ引き倒す行為に対しては、決してイエローカードが判定してはならない。試合のどの局面においても、直接の 2 分間退場を判定しなければならない。
3	映像 3 : ユニフォームを長く掴み続けた行為に対して、レフェリーはアドバンテージを見た後に、何らかのリアクションが必要である。	防御側プレーヤーによって、長くユニフォームを掴み続ける行為： 1 回目：アドバンテージをみて、クイックスローオフを妨げずに、個人的に反則を犯したプレーヤーに注意を促す。 2 回目：罰則を段階的に適用する。 続いて起こった場合：2 分間退場を判定する。

	映像タイトル	コメント
4	映像 4 : 防御側のプレイヤーが、ユニフォームとピボットの腕を長く掴み続けた行為に対して、レフェリーはアドバンテージを見た後に、何らかのリアクションが必要である。	防御側プレイヤーによって、長くユニフォームと腕を掴み続ける行為： 1 回目：アドバンテージをみて、クイックスローオフを妨げずに、個人的に反則を犯したプレイヤーに注意を促す。 2 回目：罰則を段階的に適用する。 続いて起こった場合：2 分間退場を判定する。
5	映像 5 : ピボットを長く捕まえ続け背後から引き倒す行為は、ボールの保持にかかわらず、直接の 2 分間退場である。イエローカードはあってはならない。	ピボットを長く捕まえ続け、背後より引き倒そうとする行為に対しは、決してイエローカードを判定してはならない。試合のどの局面においても、直接の 2 分間退場を判定しなければならない。
6	映像 6 : 2 つのシーンとも、ピボットへの行為は、ボールに対してのプレーではない。背後より長時間捕まえ続けており、直接の 2 分間退場である。	この 2 つの違反はどちらも、強くピボットを捕まえ続け、引き倒している。ボールに対してプレーをしていない。試合のどの局面においても、直接の 2 分間退場を判定しなければならない。イエローカードであってはならない。
7	映像 7 : 数名のプレイヤーによる戦術的なピボットに対する防御（いわゆる「サンドイッチスタイル」）は、直接の 2 分間退場を判定しなければならない。	数名のプレイヤーによるピボットに対する戦術的な「サンドイッチスタイル」の防御は、即座に 2 分間退場としなければならない。

	映像タイトル	コメント
8	映像 8 : 明らかにピボットのユニフォームを掴み続けることは、直接の 2 分間退場である。さらにピボットに対しても、罰則を誘発しないよう口頭で注意する必要がある。	ユニフォームの下に着ているアンダーシャツが見えてしまっている状況であれば、何かが起こっていることを意味している。このようにユニフォームを掴み続けることは、直接の 2 分間退場を判定しなければならない。さらにピボットに対しても、罰則の誘発を避けるよう口頭で注意が必要である。
9	映像 9 : 防御側のプレーヤーが、ゴールエリアを使用してピボットに対して優位な位置を取っている。7mスローを判定しなければならない。	防御側のプレーヤーが、ゴールエリアの内側から優位な位置を得て防御をしている。その後このプレーヤーはエリアの外へと出ているが、この行為は7mスローの判定に値する。
10	映像 10 : ピボットの背後から不当に強く突き飛ばすことは、直接の 2 分間退場を判定しなければならない。イエローカードは公正なハンドボールの精神に反する。	ピボットに対していかなる状況であっても、このように背後から突き飛ばす行為は、直接の 2 分間退場を判定しなければならない。さらに、レフェリーによる大きくて強いボディランゲージが必要である。単なるイエローカードとすることは、公正なハンドボールの概念に反する。
11	映像 11 : 新しい傾向として、ピボットが防御側プレーヤーのユニフォームを掴み続け、7mスローと直接の 2 分間退場を誘発しようとしている。この場合、両レフェリーに観察の義務がある。	新しい傾向として、ピボットが防御側プレーヤーのユニフォームを掴み、罰則を誘発しようとしているこの行為は、違反行為である。両レフェリーに観察の義務があり、オフエンシブファウルを判定しなければならない。さらにピボットに対し、重大な違反であると注意する。

	映像タイトル	コメント
12	映像12 : 同じ試合において、何度か見られた行為。スローモーションで見られる「レスリング」は、ハンドボールのイメージを損なう。	IHFは、このようなハンドボールに対するネガティブなイメージを容認しない。我々のスポーツには、レスリングやラグビーを行う場所はない。

Topic 3 : オフェンシブファウル

	映像タイトル	コメント
1	映像 1 : ピボットによる不当なブロック。	ピボットが開いた足と伸ばした腕を使って、防御側プレーヤーの進路をブロックしており、これは許される行為ではない。
2	映像 2 : ピボットが不当なブロックのために、伸ばした腕を使用している。	ピボットが有利な状況を得るために、伸ばした腕を使用している (明らかに不当なブロックである)。さらにその手は、防御側プレーヤーの首にかかっており、直接の 2 分間退場も適用する。
3	映像 3 : 防御側プレーヤーが、シューターの方へ動いている時は、決してオフェンシブファウルにしてはならない。	防御側プレーヤーが、シューターの体に対して動いている場合、決してオフェンシブファウルにしてはならない。この映像の状況では、7mスローと段階罰を判定しなければならない。
4	映像 4 : ウィングを守る防御側プレーヤーが、最初に位置を取っている。オフェンシブファウルの判定は、正しい。	新傾向 : 防御側プレーヤーが、最初に位置を取っており、防御プレーヤーにのしかかるようなシュートは、7mスローと罰則を誘発しようとしている。オフェンシブファウルの判定は、正しい。
5	映像 5 : 防御側のプレーヤーは、違反をせずに、先に位置を取っている。明らかなオフェンシブファウルである。	防御側プレーヤーは、先に位置を取っており、攻撃側プレーヤーが防御側プレーヤーの体にぶつかった。オフェンシブファウルを判定しなければならない。

	映像タイトル	コメント
6	映像 6 : フェイントをしようとする腕が、防御側プレーヤーの頭部に接触している。	攻撃側プレーヤーがフェイントで相手をかかわそうとする際、前方へ動いていない防御側プレーヤーの頭部や体に、腕がぶつかっている。オフENSIBフアウルを判定しなければならない。
7	映像 7 : 防御側プレーヤーがオフENSIBフアウルを誘発しようとしている。	防御側プレーヤーが倒れるほど十分な接触はなく、明らかに大げさなリアクションをとって、オフENSIBフアウルを誘発しようとしている。得点は認められ、その後、そのプレーヤーに対して注意をする。
8	映像 8 : 速攻時、防御側プレーヤーがコート中央で静止した状態である。オフENSIBフアウルの判定は、正しい。	速攻時、防御側プレーヤーがコート中央で静止した状態である。攻撃側プレーヤーは、静止しているそのプレーヤーの体にぶつかっている。オフENSIBフアウルの判定は、正しい。
9	映像 9 : 防御側プレーヤーが攻撃側プレーヤーに向かって動いているため、決してオフENSIBフアウルにしてはならない。	防御側プレーヤーは、攻撃側プレーヤーの体に向かって動いているため、決してオフENSIBフアウルであってはならない。正しい判定は、7mスローである。
10	映像 10 : 防御側プレーヤーは、オフENSIBフアウルを誘発しようとしている。	明らかに防御側プレーヤーが、オフENSIBフアウルを誘発しようとしている。レフェリーはアドバンテージを適用し、その後、注意すべきである。

	映像タイトル	コメント
11	映像 1 1 : 防御側プレイヤーは、ゴールエリアの外で攻撃側プレイヤーを守っている。しかし、彼はゴールエリアの内側から移動してきているため、優位な位置が取れただけである。	防御側プレイヤーは、ゴールエリアの内側から移動してきているため、シューターよりも明らかに優位な位置が取れている。そのため、決してオフENSIBフアウルにしてはならない。正しい判定は、7mスローである。
12	映像 1 2 : 攻撃側プレイヤーが、2 人の防御側プレイヤーの間を抜けた場合、決してオフENSIBフアウルにしてはならない。	2 人の防御側プレイヤーが、自分たちの間を塞ごうとしているが、間を塞ぐには遅すぎたため、攻撃側プレイヤーはすでにその間を通過している。正しい判定は 7mスローである。ゴールレフェリーによるボディランゲージも、分かりやすくて良い。

Topic 4 : パッシブプレー

	映像タイトル	コメント
1	映像 1 : 様々な中断に伴う長い攻撃活動	<ul style="list-style-type: none"> ● ボールを所持しているチームの速い攻撃行動 ● 消極的なプレーの状況ではない ● フリースロー後の1回目のパスで、パッシブプレーの予告合図を出すのは、間違っている！ <p>攻撃側チームは、短い組立て局面を使って、次の攻撃活動の準備をする権利がある！</p>
2	映像 2 : 様々な中断に伴う長い攻撃活動	<ul style="list-style-type: none"> ● 現代の試合の仕組み : <ul style="list-style-type: none"> ○ 速攻のあとに続く攻撃 (2次速攻の後の3次速攻で攻撃のスピードが変化する) ○ 最初のフリースローの後 : 攻撃を開始したが、阻止される→ポジション攻撃へ移行 ○ ポジション攻撃のための最初の組立て局面 ● 1回目のセットオフense : クロスからのシュートは、防御側プレーヤーによってブロック ● 2回目のセットオフense : 短い組立て局面で、右サイドに明らかな数的優位を狙った攻撃！ ● フリースロー後の1回目のパスで、パッシブプレーの予告合図を出すのは、間違っている！ <p>IHFの指針 : 攻撃側チームは、短い組立て局面を使って次の攻撃活動の準備をする権利がある！</p>

	映像タイトル	コメント
3	映像 3 : 組立て局面が長すぎる	<ul style="list-style-type: none"> ● 状況 : 試合終盤の重要な時間帯 ● 観察基準 : <ul style="list-style-type: none"> ○ プレーヤーが、歩いて相手コートに移動している ○ 立ったままパスをしている ○ 戦術的な意図もなく、ウィングがクロスプレーをしている ● 立ったままパスをしている状況で、レフェリーは良いタイミングで予告合図を示している <p>IHF の指針 : 最初のセットオフenseにおける組立て局面において、極端な遅延は許されない!</p> <p style="padding-left: 40px;">例 : 相手コートへ歩いていく 立った状態でのパスが多すぎる 戦術的な意図もないのにクロスプレーを行う</p>

	映像タイトル	コメント
4	映像 5 : ゴールキーパー不在(無人のゴール)での攻撃	<ul style="list-style-type: none"> ● 状況 (試合開始後 3 分) : 2 分間退場により、ボールを所持したチームはゴールキーパー不在の 6 人で攻撃中 ● 観察基準 : <ul style="list-style-type: none"> ○ ゆっくりとした組立て局面 ○ 相手にとって、怖くないクロスプレー ○ ゆっくりとした攻撃の再構成 ● この瞬間で予告合図を示すのは正解！ <p>IHF の指針 : ゴールキーパーが不在時に、攻撃側のチームがプレーしている状況で、時間をかけることは許されない！</p>
5	映像 7 : 試合終盤での重要な攻撃！	<ul style="list-style-type: none"> ● 状況 : 後半 28 分 35 秒の重要な時間帯 ボールを保持しているチームは、後半 27 分 27 秒での 2 分間退場によって、ゴールキーパー不在で攻撃中 ● 観察基準 : <ul style="list-style-type: none"> ○ 組立て局面が長い ○ 相手には脅威でないポジションチェンジやクロスプレー ● この瞬間で予告合図を示すのは正解！ <p>IHF の指針 : IHF は、すべての試合において、同じパッシブプレー判定の基準を求める。</p>

	映像タイトル	コメント
6	映像10： 予告合図なしに、直接、パッシブプレーを判定することもできる！	<ul style="list-style-type: none"> ● 重大な状況：試合終了まで残り14秒の場面で、1点リードしているチームがボールを所持している（スローオフは終了している） ● ボールを受け取った15番は、明らかな得点チャンスを得たが、この明らかなシュートチャンスを使わなかった！ ● レフェリーは即座にパッシブプレーを判定しなければならない！ <p>IHFの指針：予告合図なしに、直接パッシブプレーを判定することもできる！</p>

Topic 5 : 全般的なもの

	映像タイトル	コメント
1	映像 1 : 明確で分かりやすいボディランゲージで、2 分間退場の理由について説明している。	なぜ 2 分間退場なのかについて、レフェリーが効果的にインフォメーションを行っている良い例であり、会場にいるすべての人が理解できている。
2	映像 2 : 一回の攻撃で適用された 3 枚の機械的なイエローカードを見ると、レフェリーは「ロボット」である。 何のボディランゲージもなく、プレーヤーに対して、何の効果もない。	一回の攻撃で、3 枚のイエローカードを適用することはあり得ない。これでは試合をコントロールできない。レフェリーは、ボディランゲージや人間性、罰則をうまく組み合わせることで試合を運営しなければならない。
3	映像 3 : レフェリーは試合の流れを重視しており、得点後にその流れを止めたのは、2 分間退場を適用したときのみである。 またチーム役員へのインフォメーションも良い。	得点後、試合を止めたのは、直接の 2 分間退場を判定した場合のみである。このようにしてレフェリーは、展開の速い試合を促し、必要であればチーム役員とコンタクトを取る。
4	映像 4 : 明確でと分かりやすいボディランゲージによるインフォメーションの例であり、誰もこの判定に抗議することはない。	ゴールレフェリーの判定に関する根拠は、はっきりと分かりやすいボディランゲージによるインフォメーションによって、競技場にいる誰にでも明らかである。
5	映像 5 : ピボットを捕まえ続ける行為は、直接の 2 分間退場である。 はっきりとしたボディランゲージは、すべてのプレーヤーへの明確なインフォメーションとなる。	即座に 2 分間退場でよいが、大きくて強いボディランゲージによるインフォメーションをすることでより明確となり、その後、同様の行為を防ぐことにも効果的である。

	映像タイトル	コメント
6	映像6： チーム役員からの抗議に対して、レフェリーは人間性を持って接しなければならない。 決して攻撃的にならず、いつも冷静に対処すること。	レフェリーは誰に対しても、決して攻撃的な振る舞いをしてはならない。レフェリーは、すべての参加者に対して、常に冷静な気持ちを持ち、落ち着いて対処しなければならない。
7	映像7： レフェリーの位置取りが正しくない状況では、良い判定がなされることはない。	レフェリーは常にいい位置を取らなければならない。この場面でレフェリーは、アウターゴールラインの延長線上にいないなければならない。この状況では、レフェリーの位置が試合の最終結果に影響を与えてしまう。位置取りが悪いことで、誤った判定になってはならない。
8	映像8： コートレフェリーは、ゴールレフェリーに戻る際、決してコートに背中を向けて走ってはいけない。	コートレフェリーの動きは、間違っている。正しい判定を下すため、プレーやプレーヤーに対して、決して背中を向けて走ってはいけない。この場面で、何も起こっていないのは、レフェリーにとって非常に幸運なことである。
9	映像9： 競技終了直前、レフェリーの誤った位置取りからの誤った判定が、試合の最終結果に影響している。	青チームが攻撃しているときのレフェリーの位置取りが良くなかったため、速攻時の位置取りはさらに良くない。最終的に、競技終了直前での誤った判定へとつながり、明らかに試合の最終結果に影響している。
10	映像10： レフェリーとプレーヤーとの衝突は、誤った動きと身体的状態が原因である。	謝った位置取りと身体的状態が乏しいために、レフェリーとプレーヤーの危険な衝突を引き起こしている。これは、トップの試合で起きてはならない。レフェリーは日々の継続的なトレーニングやコンディション作りを怠ってはならない。